

## 臨床医学4 第13回

10-56 次の（）内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

原発性微弱陣痛の原因には、子宮の(1)や、(2)症、(3)、(4)、また子宮筋の(5)、(6)などがある。続発性微弱陣痛の原因には(7)、(8)、(9)、(10)、(11)や(12)の異常などがある。

語群

- a. 水頭症 b. 羊水過多 c. 胎位・胎勢 d. 機能不全 d. 児頭骨盤不均衡  
f. 巨大児 g. 先天異常 h. 骨盤内腫瘍 i. 収縮阻害 j. 軟産道強靱  
k. 双胎 l. 狭骨盤

10-59 遷延分娩について（）内にあてはまる語句を記載しなさい。

遷延分娩とは、分娩開始後、(1)では30時間、(2)では15時間を経過しても胎児娩出に至らないものをいい、(3)などの危険が予想される状態である。分娩の3要素のうち1つ以上の異常によっておこるが、これらのうち(4)によるものが約半数を占め、ついで(5)、(6)の順となる。

10-63 分娩における会陰裂傷は第1度から第4度に分けられる。下記の所見の裂傷度をそれぞれ記載しなさい。

- (1) 裂傷が肛門粘膜、直腸粘膜に及ぶもの。
- (2) 裂傷が会陰皮膚、および膣粘膜にとどまるもの。
- (3) 裂傷が肛門括約筋、直腸膈中隔に達するもの。
- (4) 裂傷が筋層に及ぶが肛門括約筋の損傷は無いもの。

10-69 新生児仮死について()内にあてはまる語句や数字を記載しなさい。

出生直後の呼吸循環動態の確立が障害された状態を(1)という。娩出された児は、臍帯結紮後間もなく(2)という形で第1呼吸が始まるが、仮死児では第1呼吸が遅れるか、(3)が持続せず、(4)症や(5)不全に陥る。重症度の測定には(6)を用いる。出生1分後の指数が(7)点以下の場合は(1)と考える。

10-71 呼吸窮迫症候群について()内にあてはまる語句を記載しなさい。

呼吸窮迫症候群とは、肺の未熟性に由来する(1)の相対的不足によって生じる呼吸障害である。出生直後より、呼吸障害である(2)、(3)、(4)呼吸、(5)呼吸、などが進行し、生後24~72時間でピークを迎えるが、その後次第に軽快する。しかし、(6)による合併症や(7)を併発して悪循環に陥ると死亡率は高い。治療としては(6)療法と(8)療法が中心となる。

10-73 新生児溶血性疾患について()内にあてはまる語句を記載しなさい。

母体にはない血液型抗原が胎児側に存在する場合を(1)妊娠という。(1)が母児間にある場合、(2)症候群などの免疫学的異常がおこる。Rh液型のD因子による(3)が多い。症状は(4)型、(5)型、(6)型の3型に分けられ、治療として(7)療法、(8)などがある。

10-83 子宮内膜症について正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 卵胞ホルモン(エストロゲン)によって消退する。
- (2) 好発部位で多いのは卵巣である。
- (3) 下腹部痛や、排便痛、月経時血便などの症状がある。
- (4) 不妊症の原因にはならない。
- (5) 月経痛を訴える若年性の発生頻度が高い。

11-4 化膿性関節炎について正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 化膿菌の感染による関節炎である。
- (2) 緑膿菌が起病菌であることが多い。
- (3) 関節破壊が急速に進むため、早期治療が大切である。
- (4) 幼少時では、肩関節に多く発症する。
- (5) 成人では、全身症状として、発熱を伴う。

11-6 関節リウマチの症状について()内にあてはまる語句を記載しなさい。

関節症状の早期では、朝起きたとき、指の関節がこわばって動かしにくい(1)と多発性、左右対称性、持続性の(2)関節炎がある。好発部位は小関節、特に(2)関節、(3)関節などで、次第に(4)関節が侵される。しかし(5)関節はほとんど侵されない。晩期症状になると、手指では(6)変形、(7)変形、足では(8)、(9)そのほか(10)などがある。

11-11 関節リウマチの治療について正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 炎症が強いつきは早期より副腎皮質ステロイドを強力に併用する。
- (2) 疼痛や腫脹の軽減には、非ステロイド抗炎症薬を投与する。
- (3) 抗リウマチ療法では効果発現まで1年以上を要することが多い。
- (4) 少数関節のみの炎症で、高度なときには、関節腔内へのステロイド注入を行う。

11-13 痛風の症状について()内にあてはまる語句を記載しなさい。

急性痛風性関節炎では、初期の発作は(1)性で、(2)関節に初発するものが多く、数時間で消失するが、繰り返すたびに(3)し、持続時間も長くなる。慢性痛風では、(4)の結晶が、(5)、(6)、(7)、(8)などに沈着し、(9)を作る。また、関節の(10)、変形をきたす。治療薬には発作の初期には(11)を服用する。また、インドメタシンや(12)抗炎症剤も用いる。

11-18 川崎病について()内にあてはまる語句を記載しなさい。

乳幼児にみられる(1)疾患で、全身の(2)がみられ、(3)、(4)、(5)などが侵される疾患である。(6)症候群ともいわれる。(7)の男子に多く、集団発生の傾向があり、後遺症として一部の症例に(8)が残り、のちに(9)をおこしたり、(10)による閉塞が進行して(11)の原因となる。

11-21 全身性エリテマトーデスの特徴について正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 特徴的病理として血管炎やオニオンスキン病変、リブマン・サックス心内膜炎などがある。
- (2) 30歳未満の妊娠可能女性が大部分である。
- (3) 自己反応性T細胞や、自己抗体などの免疫異常が認められる。
- (4) 遺伝的要因、免疫学的要因、環境要因などが発症に関与している。

11-26 多発性筋炎・皮唐筋炎について()内にあてはまる語句を記載しなさい。

横紋筋を広汎に傷害する(1)疾患で、(2)の対称性の筋力(3)が臨床的な特徴である。皮膚病変、肺病変を示す例もあり、(4)疾患群に属す。多発性筋炎の中で特有の皮膚病変を伴うものが(5)で、原因は不明であるが、遺伝的素因にD-ペニシラミンなどの薬剤、ウイルスなどの(6)が作用する説が有力である。また、年齢を問わず(7)性に多い。筋炎病因のひとつとして(8)合併が多い。

11-32 全身性硬化症の消化管病変について症状と病変が正しい組合せになるよう語群より選び、記号で答えなさい。

- (1) 腸管の蠕動低下と拡張による腹部膨満感、下痢と便秘を繰り返し、吸収不良症候群となる。
- (2) 舌小体の肥厚と短縮、舌の呈出困難が高頻度におこる。
- (3) 憩室様拡張、腸の嚢胞性気腫。
- (4) 食道下部の拡張と収縮能の低下により、嚥下障害、逆流性食道炎がおこる。

語群

- a. 小腸病変 b. 食道病変 c. 口腔病変 d. 大腸病変

11-36 ベーチェット病について()内にあてはまる語句を記載しなさい。

口腔粘膜の(1)、(2)や毛嚢炎などの皮疹、眼の(3)、(4)をはじめとし、全身のほとんどの臓器に(5)炎症発作を繰り返しつつ、(6)経過を取る原因不明の疾患である。(7)歳代に多く性差は少ない。遺伝的素因で、患者は(8)の保有率が高い。

11-38 ベーチェット病について()内にあてはまる語句を記載しなさい。

ベーチェット病に特異的な検査所見はなく、診断は臨床症状の組み合わせで行う。血液検査では赤沈値(1)、血清 CRP(2)、末梢白血球(3)などがみられ、(4)系の測定では(2)率は 50~60%である。滅菌注射針を皮膚に刺入する針反応では、皮膚刺激性亢進を反映して、24~48 時間後にその部位に(5)の形成をみる。治療薬では、特殊病型の症状には(6)が主体となる。眼症状にはステロイド点眼薬と(7)剤、粘膜、皮膚、関節病変などには、(8)が有効である。

11-39 ベーチェット病の副症状について()内にあてはまる語句を記載しなさい。

副症状は 50~60%は(1)症状だが、消化器症状として、回盲部から上行結腸にかけて難治性(2)性潰瘍が多発する(3)型ベーチェット病、血管系症状では、大・中血管などに炎症性、血栓性閉塞や動脈瘤を形成し、静脈型に多い(4)型ベーチェット病、精神神経症状では、多彩な中枢神経症状をくりかえす(5)型ベーチェット病があり、生命に脅威をもたらし得る病型として特殊病型がある。

11-42 特発性側弯症について()内にあてはまる語句を記載しなさい。

原因のはっきりしている側弯もあるが、大部分は原因不明の(1)症である。(1)症は、発症年齢により、3歳以下を(2)側湾症、3歳から小学校低学年頃までを(3)側湾症、10歳以上の思春期に発症する(4)側弯症の3型に分けられるが、その80%は(4)側弯症である。

11-45 脊椎分離症について正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 青少年の約10%にみられ、スポーツ愛好家や選手に多い。
- (2) 一番下の腰椎である第5腰椎に多く発生する。
- (3) 過度のスポーツが原因である。
- (4) 青少年では早期よりギブスベットでの絶対安静が必要である。
- (5) 成人では保存的療法でほぼ治癒しやすい。

11-47 先天性脊椎すべり症について()内にあてはまる語句を記載しなさい。

第5腰椎のすぐ下の第1(1)の先天的な(2)により、第5腰椎にきわめて高度なすべりが生じる。成長とともに進行し、(3)に急速に増悪する傾向がある。腰痛と(4)に痛みを訴え、すべりによる(5)変形とそれを代償するための(6)増強の姿勢(見かけの出尻)を示す。